



# みみぷくだより

令和元年 11月18日発行  
第3号

## 令和元年度 第2回みみらんどセミナー 報告

- ★ 日 時 ★ 令和元年度 10月11日(金) 9:35~16:30
- ★ テーマ ★ 「生きて働き、使うことのできる言葉をどう育てるか」
- ★ 講師 ★ 筑波大学講師 松本末男先生  
(公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会 事務局長)

### 1 幼稚部・小学部 授業参観

幼稚部は「総合的な活動」、小学部は「生活単元学習」「国語」の学習の様子を参観していただきました。参観後には、言葉をより引き出し、育てるためのアプローチの仕方等、様々なアドバイスをいただきました。

### 2 教員・関係機関対象セミナー

「生きて働き、使うことのできる言葉をどう育てるか」



「ことばは、育てる。」

- ・身近な大人がわかってくると子どもは大人のことをわかりたいと思う。
- ・経験を重ねてもっとたくさんの言葉がわかる。(エピソードとともに)
- ・言葉がわかると、場面で言葉の模倣をしはじめる。模倣を大いにほめて、認める。

「表出をいそがない！」

- ・言葉話すことに、目標をおかないで!
- ・話しかけられたことがわかることが重要
- ・具体的な場面を大事に出来事を話す。
- ・子どもが話すと少し安心します。しかし…
- ・子どもが、分かったかどうか様子を見る。

- ◎身近な大人が、受け取ろうとする努力
- ◎時にはわからないこともある
- ◎だけどわかろうとする努力は素敵
- ◎訴えると、見てくれるお母さんは意欲を育てる

「わかろうとしてくれた！」という

過程が大事

### 話しかけるとき

#### 言葉のサンドイッチ

ジャブジャブてをあらおうーうんうんかない。

《手を取り、手を合わせてこすりながら》  
ジャブジャブてをあらおう  
↓  
《おっ!手を合わせてこすり始める。》



そうそう。おでてを合わせてね。  
ジャブジャブあらおう。

言葉だけで確認したら  
できるでしょうか?

※資料より抜粋

<参加された方々の感想> ※一部抜粋

- ★「子どもと一緒に楽しむこと」が、講義全体を通して伝わってきました。
- ★言葉の表出に経験が重要であることは知っていましたが、その重要性が腑に落ちました。

ご参加ありがとうございました。

# 線音源スピーカーが入りました！



8月に新校舎での学習をスタートすると同時に、集団補聴システム「ロジャー」が導入されました。タッチスクリーンマイクを使って話をする、補聴器に直接声が届くと同時に、線音源スピーカー「デジマスター」を通して、広い場所全体にも大きくはっきりと届くようになりました。反響が少なく音が減衰しにくいので、話者の話がより聞きやすくなりました。会場にいる人で情報を共有することができるツールの一つとして活用しています。

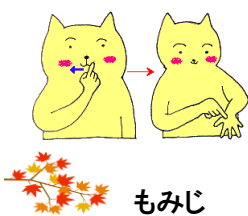
これが線音源スピーカーです。軽いので、移動して使用することができます。



小学部「交流校新校舎招待」の様子

## 小学部集会「今月の手話」より

毎月1回行っている小学部集会では、「今月の手話」のコーナーを設け、季節や行事等に関連している手話について楽しく学んでいます。



連絡先 福島県立聴覚支援学校 福島校  
TEL&FAX 024(531)5013  
アドレス <https://fukushima-sd-fukushima.fcs.ed.jp>  
担当 地域支援センター「みみらんど ふくしま」  
今野千寿（特別支援教育コーディネーター）

こちらのQRコードからHPにアクセスできます。

